

事業の背景・目的

日南海岸には多くのサンゴが生息しており、その海中の景観の素晴らしさから日南海岸国定公園（海域公園）に指定されている。サンゴ群集には多種多様な海洋生物が生息していることから、水産業にとっても重要な資源であり、宮崎県の素晴らしい宝である。しかしながら、サンゴを食害するオニヒトデの大量発生が確認されて以降、生息域が拡大しサンゴ群集の劣化が進んでいることから、サンゴ食害生物の駆除を行い被害拡大防止を図り、サンゴ群集及び生物多様性の保全、海中景観維持等に努めるものである。



事業の内容

事業① サンゴ生息域等調査、サンゴ食害生物駆除

- ・サンゴ生息域や被害状況、白化現象などの調査を行う。
- ・サンゴ食害生物（オニヒトデ、ヒメシロレイシガイダマシ）の駆除活動。
- ・調査や駆除活動をベテランダイバーに学び後継者を育成。



事業② 会議開催

- ・事業の実績や計画を報告するだけでなく、学識者やダイバーから近況の報告、漁業者等と意思疎通のため意見交換を行い、サンゴ群集への保全や今後の協議会運営について協議や検討を行う。



事業③ 普及啓発

- ・子供たちを対象としたサンゴ観察会と講話を実施し、環境教育の活動を行う。
- ・サンゴ写真パネル展を大型ショッピングセンターで実施し、普及啓発活動を行う。



得られた成果

- 調査及び駆除を通して、オニヒトデ384kgを駆除し、被害拡大を防止しサンゴ群集の保全を図ることができた。
- オニヒトデの発生状況は、都井岬沖以南では収束しつつあり、一部では全滅したサンゴの復元も確認された。しかし都井岬沖以北に発生地が移行しており、築島では駆除を行っている区域以外のサンゴ群集はほぼ全滅状態であり、築島より北の大島では食害区域が拡大し、最も被害が顕著となっていることから、今年度は集中的に大島周辺の保全活動に取り組んだ。
- 今後の保全活動者を育てる取組（担い手の確保・育成）を、宮崎大学やダイバーショップと協力して行い、延べ30名が調査及び駆除活動に従事した。継続的に潜水経験や駆除体験を積み、本格的な活動ができるよう今後も取り組む必要がある。
- 会議では、今後の協議会運営について話し合わせ、官民連携した本協議会の重要性を確認し、継続した体制を取ることとなった。
- サンゴ観察会は台風の影響で中止となったが、多数の参加申込みがあり、ふるさとの海の対する関心の高さを感じた。
- サンゴ写真展では、2日間で延べ約2,400名の来訪者があり、身近な海域にサンゴ礁や熱帯魚等の海中生物が生息していることを周知できた。